

## 安心の集落づくり 検討を 小規模集落への支援策構築



やまもと まきお  
山本 牧夫 議員

**問** 65才以上の高齢者が住民の半数以上を占める限界集落が、本町でも令和7年1月で62集落中31集落あり、丁度半分に到達。このままでは危機的集落へと進む。

この地域で生活する人々の生活用品買い出しや、福祉、交通手段、医療他、草刈り、神祭等の共同作業を維持し、安心して生活できる集落システム作りを検討する事が喫緊の課題だと考えるが対策を問う。

**答** 大西町長

少子高齢化社会が進む中で、限界集落も直近5年間で7地区増えた。

地域が支え合いながら安心して暮らし続ける仕組み作りとして、集落活動センターや、あったかふれあいセンターを町内各所に設置し、地域の維持、活性化に繋がる拠点として事業を展開してきた。

地区は独立した組織であり、過度の行政関与は

問題であるが、現状の厳しさを踏まえ、令和7年度に事務計画協議を行い小規模集落を集中的に支援できる枠組みを構築したいと考えている。



限界集落の一例、奥湊川（上）と市野瀬（下）（令和7年3月下旬）

